

白山地域のミズラモグラの分布

林 哲 石川県白山自然保護センター
子 安 和 弘 愛知学院大学歯学部

DISTRIBUTION OF JAPANESE MOUNTAIN MOLE (*Euroscaptor mizura*) IN MT. HAKUSAN AREA, CENTRAL HONSHU, JAPAN

Tetsu HAYASHI, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Kazuhiro KOYASU, *Aichi-Gakuin University School of Dentistry*

はじめに

石川県では、モグラ科の哺乳類はヒメヒミズ (*Dymecodon pilirostris*), ヒミズ (*Urotrichus talpoides*), ミズラモグラ (*Euroscaptor mizura*), アズマモグラ (*Mogera imaizumii*) の4種が知られている(石川県, 1993)。この4種のうちミズラモグラは、日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック(脊椎動物編)(環境庁編, 1991)やレッドデータ 日本の哺乳類(日本哺乳類学会, 1997)では希少種にランクされている。

これまで石川県で行われてきた哺乳類の分布調査(花井, 1977・1978; 石川県, 1993)では本種の十分な論究はなく、1982年度から1984年度に行った白山高山帯自然史調査事業において、水野・八神(1985)はミズラモグラの6例の死体採集があり、うち5例は収蔵標本であることを報告し、白山地域では「低山帯からかなり広い範囲に分布している」ことを示唆している。その後、1996年度と1997年度に実施した環境庁委託生態系多様性地域調査(白山地区)事業において(岐阜県・石川県, 1998)、3個体の採集成果があったことから白山自然保護センターの収蔵標本等を整理したところ、さらに4個体の収蔵標本ならびに文献情報が得られたので改めて本種について整理・検討することとした。本報告をまとめるにあたり、情報・資料を提供していただいた岐阜県山県高校高木雅紀教諭、岐阜県教育委員会学校指導課梶浦啓一氏、富山市科学文化センター南部久男氏、比婆科学教育振興会中村慎吾氏に謝意を表します。

モグラ類と日本におけるミズラモグラの分布

阿部(1994; 1998)は、日本におけるモグラ類(モグラ科)をヒミズ亜科(ヒメヒミズ属1種, ヒミズ属1種)とモグラ亜科(ミズラモグラ属1種, センカクモグラ属1種, モグラ属3種)の2亜科5属7種に分けた。今泉(1960)は、ミズラモグラをさらにフジミズラモグラ, シナノミズラモグラ, ヒワミズラモグラの3亜種に分類している(ただし、今泉(1998)では、これらをすべて種に昇格させた上でモグラ属に含めている)。環境庁編集によるレッドデータブック(環境庁編, 1991)では、このうちの2亜種シナノミズラモグラ及びフジミズラモグラを希少種に指定している。

ヒミズ亜科のモグラ類(ヒメヒミズ, ヒミズ)は「地表直下の土の中にようやく入り込めたタイプ」で、モグラ亜科のモグラ類(ミズラモグラ, アズマモグラ, コウベモグラなど)は「本格的な地下生活者」といわれている(今泉, 1987)。このうちミズラモグラは、モグラ亜科の中では「いちばん最初に大陸から日本へ入ってきた」(今泉, 1987)原始的な種類とされ、国内では広島から東北まで広く分布しているが、孤立した分布を示している(図2)(日本哺乳類学会編, 1997)。本種の分布は中部地方の山岳地帯に多い傾向がうかがえる。

ヒミズ亜科(ヒメヒミズ属, ヒミズ属)とモグラ亜科(ミズラモグラ属, モグラ属)の違いは体色, 体長, 前足等で顕著であり、それらの外形による種類の識別は容易であるが、モグラ属(アズマモグラやコウベモグラ)とミズラモグラ属の識別を外形から判断するのは一部(鼻先:口吻)を除いては困難

白山地域におけるミズラモグラの分布

水野・八神 (1985) が整理した時点では、白山地域 (石川県内) のミズラモグラの情報は、5 個体の標本と 1 点の情報、計 6 点のみであった。その後、本種の情報を整理したところ、さら 8 件の採集記録があり、合計 14 件の情報となった (石川県 12 件、岐阜県 2 件) (表 1)。この 14 件の情報を整理すると、標高 2,000m 以上の白山御前峰を中心とする亜高山帯から高山帯に多い傾向が認められた (9 件)。一方、北部白山地域の尾添川蛇谷流域で 3 件の情報があり、吉野谷村中宮 (白山自然保護センター中宮展示館前—標高 600m) における情報が、14 件のなかで最も低い標高地の分布を示す情報であった。白山地域周辺ではこれらの情報のほかに庄川右岸域 (岐阜県大野郡庄川村牛丸、標高約 800m) においても分布が知られている (前田・長谷川, 1990)。

一方、岐阜県内では白山地域外で御岳北部 (益田郡小坂町濁河、標高 1,700m) (前田・長谷川, 1990)、御岳西部 (益田郡萩原町尾崎、標高約 550m) (梶浦, 1996)、御岳南部 (恵那郡付知町東股谷、標高約 1,400m) (寺西, 1985)、乗鞍岳・穂高岳周辺地域 (吉城郡上宝村新穂高・標高約 1,000m、大野郡丹生川村乗鞍岳・標高約 2,600m) (梶浦, 1996) など 5 件の情報が知られているが、白山地域から遠距離に位置する。梶浦 (1996) によれば、益田郡萩原町尾崎には近縁種のアズマモグラとコウベモグラが分布しており、本種の生息が確認されたことは「注目すべきところである」と述べている。

富山県では立山地域 (弥陀ヶ原, 天狗平, 奥大日岳) の亜高山帯—高山帯のほか立山下ノ小平 (1,220m)、立山浄土沢 (1,500m) (富山県, 1980)、薬師岳西部—有湖峰 (1,600m) (南部, 私信) の山地帯の分布など若干の情報は知られているが、富山県側の白山麓 (東砺波郡上平村や西砺波郡福光町) の情報は、現在のところ得られていない。また、福井県側の白山麓 (大野市打波川流域や勝山市滝波川流域など) でも現在のところ情報は知られていない (東谷, 1966; 福井県, 1998)。

なお、阿部 (1994) によるミズラモグラの計測値は、体重 26-35.5g、頭胴長 80-106.5mm、尾長 20-26mm、後足長 13.5-15.4mm であるが、白山で採集された 2 個体の計測値は、体重 26.8g、頭胴長 83.3mm、86.6mm、尾長 24.0mm、15.3mm、後足長 14.4mm、14.1mm であった (表 2)。

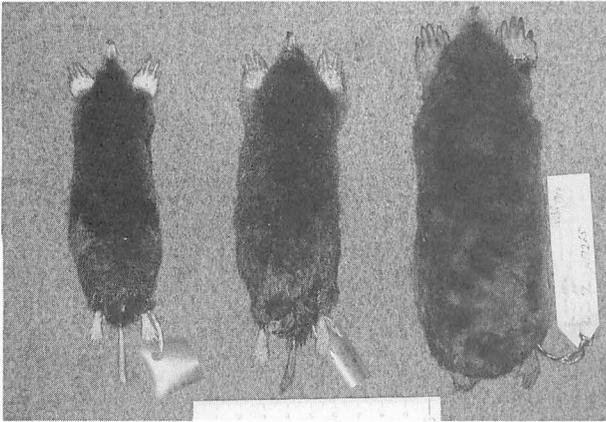


写真1 ミズラモグラ類 3 種の比較

左からミズラモグラ (*Euroscaptor mizura*) [白峰村白山万才谷上部]、アズマモグラ (*Mogera imaizumii*) [長野県伊那市]、コウベモグラ (*M. wogura*) [神戸市] (いずれも仮剥製)。コウベモグラは比和町立自然科学館所蔵

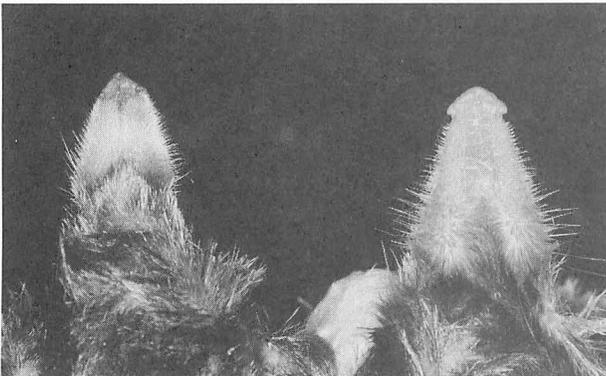


写真2 ミズラモグラ (左) とアズマモグラ (右) 吻部の比較

ミズラモグラは白峰村チブリ尾根産 (HNCC38)、アズマモグラは吉野谷村中宮産 (HNCC51)

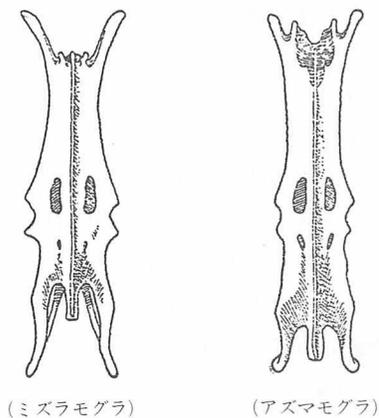


図1 ミズラモグラとアズマモグラの骨盤背面の比較 (今泉, 1960より)

である (写真 1, 2)。しかし、歯数 (ミズラモグラ属 = 44本, モグラ属 = 42本) や骨盤の形状には明確な違いが認められる (図 1)。

環境庁は1991年に編集したレッドデータブックを見直し、ミズラモグラ（ヒワミズラモグラ、フジミズラモグラ、シナノミズラモグラ）を準絶滅危惧種に指定した（環境庁，1998）。

石川県では局地的な分布状況であること、情報が少ないことなどから生息数が多くないものと推定され、石川県では準絶滅危惧種に相当する種とみなしてもよいと思われる。



図2 日本のミズラモグラの分布と白山地域の分布
 (国土地理院20万分の1地勢図「金沢」H5発行，使用)
 (日本のミズラモグラの分布は「日本の哺乳類」1994より)

表1 白山地域のミズラモグラの情報

	採集地	第3次メッシュ	標高(m)	年月日	採集者	備考	標本番号	文献
1	石川県 白峰村 白山(御前峰)	5436-16-81	2,700	1975.8.	花井正光			花井, 1978
2	石川県 白峰村 白山(ヒルバオ雪溪)	5436-16-91	2,350	1978.10.6	木下道雄		33	
3	石川県 吉野谷村 中宮(展示館前)	5436-36-11	600	1980.7.19	下家智見		34	
4	石川県 吉野谷村 中宮温泉	5436-36-01	650	1981.9.8	殊才 実		49	
5	石川県 白峰村 砂防新道	5436-16-50	1,650	1982.8.12	上馬康生		35	
6	石川県 白峰村 甚之助避難小屋下	5436-16-51	1,900	1982.8.21	八神徳彦	頭部+体	36	
7	石川県 白峰村 チブリ尾根	5436-16-20	1,800	1982.8.26	上馬康生		38	
8	石川県 吉野谷村 中宮白山林道	5436-36-06	1,320	1985.10.10	八神徳彦	♂	39	
9	石川県 白峰村 弥陀ヶ原(五葉坂下)	5436-16-71	2,350	1986.6	木下道雄		52	
10	石川県 白峰村 白山(大汝峰)	5436-16-81	2,610	1989.8.26	高柳一男		40	
11	石川県 白峰村 別山(大屏風)	5436-16-42	2,256	1989.10.2	坪田敏男			前田・長谷川, 1990
12	岐阜県 白川村 大倉山	5436-16-74	1,900	1996.8.24	高木雅紀			田口・梶浦, 1998 高木, 1996
13	石川県 白峰村 白山(万才谷上部)	5436-16-72	2,450	1996.10.6	子安和弘	♂		子安・林, 1997
14	岐阜県 白川村 大白川キャンプ場	5436-16-76	1,300	1997.8.30	田口五弘			田口・梶浦, 1998

* 標本番号 白山自然保護センター収蔵標本。

表2 白山地域のミズラモグラの計測

採集地	採集年月日	SEX	体重(g)	頭胴長(mm)	尾長(mm)	後足長(mm)
白川村大倉山(岐阜県)	1996.8.24	—	—	83.3	24.0	14.4
白峰村万才谷(石川県)	1996.10.6	♂	26.8	86.6	15.3	14.1

文 献

阿部 永(1994) 日本産モグラ目の検索表. 日本の哺乳類. 東海大学出版会, 156-158.

阿部 永(1998) モグラ科の分類・形態. 食虫類の自然史. 比婆科学教育振興会(庄原市), 25-58.

福井県(1998) 福井の鳥とけものたち. 福井県自然保護課.

岐阜県・石川県(1998) 平成9年度生態系多様性地域調査(白山地区) 報告書.

花井正光(1977) 石川県の自然環境 第3分冊鳥獣. 石川県環境部.

花井正光(1978) 白山高山帯の哺乳類相. 石川県白山自然保護センター研究報告第4集, 83-92.

東谷 薫(1966) 福井県に見る哺乳類と鳥類. 福井県博物同好会会報(13), 11-20.

今泉吉晴(1987) 空中モグラあらわる. 岩波新書.

今泉吉典(1960) 原色日本哺乳類図鑑. 保育社.

今泉吉典(1998) 哺乳動物進化論—哺乳類の種と種分化. ニュートンプレス.

石川県(1993) 石川県の動植物. 石川県環境部.

梶浦敬一(1996) ミズラモグラの採集. 岐阜ふるさとと動物

通信(69), 岐阜県哺乳動物調査研究会, 1110-1111.

環境庁(1998) 哺乳類及び鳥類のレッドリストの見直しについて. 環境庁自然保護局野生生物課.

環境庁編(1991) 日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック(脊椎動物編). 自然環境研究センター.

子安和弘・林 哲(1997) 白山高山帯における野生小哺乳類. 石川県白山自然保護センター研究報告第24集, 23-32.

前田喜四雄・長谷川道明(1990) 岐阜県の食虫類. 岐阜県博物館調査研究報告(11), 39-42.

水野昭憲・八神徳彦(1985) ほ乳類. 白山高山帯自然史調査報告書, 石川県白山自然保護センター, 107-111.

日本哺乳類学会編(1997) レッドデータ 日本の哺乳類. 文一総合出版.

田口五弘・梶浦敬一(1998) 定点観測法による哺乳類相—白山スーパー林道及び県道白山公園—平瀬線沿いに. 平成9年度生態系多様性地域調査(白山地区) 報告書, 岐阜県・石川県, 217-226.

寺西敏夫(1985) 岐阜県におけるミズラモグラの新産地. マンモス(40), 名古屋哺乳類研究会, 1-2.

富山県(1980) 富山県の鳥獣. 富山県自然保護課.